

## 臨床検体使用に関するお知らせ

『研究課題名 分娩第 2 期における胎児心拍陣痛図レベル分類から新生児アシデミアを予測するためのスコアリングを作成するための後方視的研究』

### 【研究の背景および目的】

現在、妊娠・分娩経過中の胎児の状態を評価する方法として、胎児心拍陣痛図が世界で広く使用されています。我が国では、2008 年に日本産婦人科学会から胎児心拍波形の分類に基づく分娩時胎児管理の指針が示され、その後改訂を繰り返し、現在「産婦人科診療ガイドライン-産科編 2014」に記載されています。

この分類は胎児心拍陣痛図における一過性徐脈等の胎児心拍波形に応じてレベル分類され、それぞれのレベルに応じて対応が提示されており、現在の我が国の産婦人科臨床現場で診療方針決定の根幹となっています。しかし、この分娩時胎児管理の指針ではまだ不十分なところがあり、細かい状況においては個々の産婦人科医の判断が必要とされる場面が多く、負担となることもあります。

そこで、東邦大学医療センター大森病院産婦人科では、当院で施行した経膈分娩において、分娩第 2 期における胎児心拍陣痛図の所見からスコアリングシステムを構築し、医療介入の指標を作成することを目的として本研究を計画しました。

この研究で得られる成果は、当院のより安全で質の高い産科医療を提供することにつながります。また、医学学会や学術誌への公表を通じて、わが国の産科医療提供体制に有用な疫学情報を提示することとなり、日本の産科医療の安全性の向上に貢献します。

### 【研究対象および方法】

この研究は、東邦大学医療センター大森病院倫理委員会の承認を得て実施するものです（承認番号）。2017 年以降 2019 年までに東邦大学医療センター大森病院産婦人科において、経膈分娩に至った全症例を対象とします。診療録(カルテ)から抽出した分娩時記録をもとに分娩時データを解析することにより、当院における分娩統計を明確にするとともに、経膈分娩の合併症や出生児の出生後経過を調査します。

今回の研究で得られた成果を、医学的な専門学会や専門雑誌等で報告することがありますが、個人を特定できるような情報が外部に漏れることは一切ありません。

本研究に関してご質問のある方、診療情報や病理解剖結果を研究に利用することを承諾されない方は、下記までご連絡下さい。

### 【連絡先および担当者】

東邦大学医療センター大森病院  
産婦人科 講師・早田英二郎  
連絡先 03-3762-4151